工学部ガイダンス　　20040403

教務委員長あいさつ骨子（10 分を目安）

教務委員会 : 学生さんが勉強してくるようなしくみ、教員がサボらないで教育をするようなしくみを考える委員会。（教員は無免許運転。）

1. よく考えよう
   - 考える→書いてみる→調べる→尋ねる→良く聞く（→実行する）→考える(ループ)
   - 調べる前に良く考える→自分の考えのどこがいたらないかを知ることができる。人にものを尋ねるときには、可能な調査をしてから、が礼儀。たとえば、本を読めば書いてあることを、読まずに人に聞くのは、怠けているだけ。良く聞くということ→分かったつもりにならないで、分かるまで食い下がる。
   - 実行してみて、不十分であればまた考える、という繰り返し。
2. どのように学習教育環境を使うか
   - 先生は経験と知識を豊富に持っている。知識を吸収するためには、本と先生を併用するのが良い。先生の知識は、偏っていたり不正確だったりすることもある。経験は大切であり、貴重である。先生の体験談によく耳を傾けてください。
   - 実験や実習などの科目での体験はもちろん、インターンシップ、現場見学、国際研修など、みずから体験をする機会を積極的に活用して下さい。与えられたものより、自分から進んでもった経験から得られる果実はとても大きいと考えます。
   - また、大学は教わるところではなく、自分で学ぶところです。先生方は、よりよい授業をするよう努力はしますが、無免許であります。わかりにくい授業はむしろそれを乗り越えて理解するハードルを与えてくれているという理解をするべきです。わからなくなったら、考えるサイクルに入ってください。一方、教員もよりよい授業ができるよう努力を継続してゆかなければならないことは当然です。
3. take notes
   - 人間は忘れます。聞いているときには、わかったような気持ちになりますが、それは１００％蓄積されて有効利用されると思ったら大間違い。はがきサイズのノートが良い。いつでもポケットに入れて持ち運べるし､いつでも出してちょっとメモることができる。
   - 自分流のノートを作るべし。黒板にかかれたことを写すのがノートではない。先生が話すこと、映写すること、その中から重要なものを、自分のわかる言葉や絵を使って再現するのが、take notes である。一生大事に保管して、ことあるごとに読み返すことのできる貴重な財産になると信じます。試験前にあってあわてて人のノートをする人がたくさんいるようですが、そのような人が目標レベルに到達するとは到底思えません。仮にラッキーで単位を取得しても、何の価値もないものであります。
4. 学修要覧は契約書
   - あなた方が卒業するまでの４年間の教育プログラム。学科には教務委員、クラス担任（より広い範囲)、教務課職員。皆さんを大人として対応します。先ほど言った、考える→調べるというはじめに話した循環プロセスを忘れないでください。
   - あなた方が本大学のそれぞれの学科を選んで入学したことにより、この契約は発効していると考えていいと思います。しかし、一方で、アブラハムリンカーンはこのように言っています､｢相手の承諾なしに他人を統治あるいは支配することができるほど立派な人間は一人もいない｣ これを今の私たちの置かれた状況に当てはめてみれば、学生さんが

主体である教育機関ですから、決して皆さんを教職員が支配するのではないということです。学生さんたちと教職員がお互いの理解に努めて、共同してこの大学を作り上げることが重要と考えています。

5. 人生は積分値で評価されます。

微分ではありません。ここで、横軸は時間軸ですね。縦軸は目標に対する成果と考えればよいと思います。微分というのは傾き、あるいは増加率ですよね。瞬間の勢いといってもいいと思います。積分値は、グラフの下の面積ですね。積分値はトータルの達成度であると思います。傾き、すなわち勢いがずっと大きな人は積分値も高くなりますから問題ないんです。しかし、ひとは、山あり谷ありで、傾きあるいは微分値は、大きくなったり小さくなったり、場合によってはマイナスの傾きで下降してしまうこともあります。ですから、我々のある年齢での目標への到達度はそれぞれ異なることになります。しかし、心配は要りません。いつでも、がんばりさえすればすぐに勾配は上向かせることができますし、その状態をなるべく持続させることによって、確実に目標が達成される方向に向かいます。瞬間の微分値を高くして、目標到達に向けて努力をしてゆきましょう。

最後になりますが、

どうか、４年たって卒業するときの自分の姿を今から描いてください。卒業後 10 年たったときの姿、30 年たったときの姿を描いてみてください。自分が生きた証をどのようなかたちで後世に残してゆくかを考えてみてください。いまからそうすれば、その目標に向かっての努力は楽しいものになるはずです。楽しくなれば、もう成果は保証されたようなものではないでしょうか？

Keep your face to the sunshine and you cannot see the shadow

光と音を失ってもなお、言葉を獲得し、慈善事業などを通じて社会に貢献した故ヘレンケラーのことばです。光と音の世界を知らない彼女がなしえたことがらは、この言葉が表す楽天主義を示していると思います。